

特集

どうする？ 子宮腺筋症の管理

企画者のことば

森 泰輔*

子宮腺筋症患者を日常臨床において経験する機会は明らかに増えている。子宮腺筋症の病変の主座は子宮筋層内であるため、卵巣や腹膜に発生する一般的な子宮内膜症と異なり、疼痛、出血、流産、不妊などが問題となることが多い。そのため、妊娠の希望や子宮温存の希望に合わせた、より細やかな個別の対応が必要となる。一方、ガイドラインの発刊や学会・研究会を通して、子宮内膜症に対する治療法・管理法は常時アップデートされてきたが、子宮腺筋症にフォーカスをあてたものはあまり多くはない。

本特集では、子宮腺筋症の現状と最新の管理法について、エキスパートの先生方にご解説いただいた。疫学、病理・画像診断のポイント、ゲノム解析を用いて明らかになってきた病因・病態、個々の症状に応じた治療の実際、プレコンセプションケアについて、基礎的および臨床的側面から最先端の知識が詰め込まれている。本特集を通じて、子宮腺筋症についての理解を深めていただき、日常の診療に役立てていただければ幸甚である。

* Taisuke Mori 京都府立医科大学産婦人科学教室(教授)